

## はじめに

上里町立郷土資料館では、上里町に関連する資料の調査や収集を行い、昔の人々の生活の様子を研究しています。

令和3年の夏、大字忍保に所在する福田家から明治・昭和頃に作られた雛人形が大量に発見され、郷土資料館に寄贈されることになりました。今回はこの雛人形について紹介します。

## 福田家について

福田家は、上里町大字忍保に所在する旧家の一つです。最近まで、築90年を超える母屋と土蔵、蚕を飼育した蚕室等が現存しており、伝統的な農村の風景を色濃く残していました。

令和3年7月、現在の当主ご夫妻より「母屋や土蔵に古文書や古い道具類があるので見てほしい」という相談を受け、早速調査を開始しました。この調査で土蔵から、今回紹介する雛人形が発見されたほか、明治時代～昭和の初めに書かれた古文書類など1,000点以上が確認されました。これら古文書（写真2）から福田家は、稲、麦の生産のほか、養蚕や蚕種（養蚕を行う際のもとになる卵）の製造、藍染めの原料となる藍玉の製造、販売等を行っていた大規模な農家であったことが判明しました。



写真1：福田家母屋

古文書から昭和2年に建築されたことが分かっています。また、2階は蚕室として利用されていました。このような住宅は、かつて町内各地で多く見られましたが近年は珍しくなっています。残念ながら、2021年秋に取り壊されてしまいました。



写真2：発見された古文書類の一部

左側の2点が藍玉の原料となる藍葉の買入れ、右側1点が蚕種の販売をした際の帳簿です。明治時代のもので買入れ先の名前や代金などが記されています。

## 福田家旧蔵 雛人形の全貌

福田家から見つかった雛人形（写真3）は、内裏雛（だいらびな）と祓雛（かみしもびな）の二種類です。いずれも3月3日の桃の節句（ひな祭り）に飾られたものです。また、このほかに初節句に贈られたと考えられる「浮世人形」が多く見つかりました。

これらは、綿や紙でしっかりと梱包された状態で見つかりましたが、一部で虫食いが見られました。そのため人形に付着したホコリや虫の死骸等をピンセットや筆で取り除き、長期保存が出来るよう整理を行いました（写真4）。



写真3：発見時の雛人形

雛人形は、いずれも木箱に入れられた状態で発見されました。木箱には、和紙や新聞紙を使い、しっかりと目張りがされていました（後述）。

## ❁ 内裏雛-だいらびな-

内裏雛とは、天皇、皇后の姿をかたどった雛人形のことです。一般にお雛様とよばれ、「女雛(めびな)」と「男雛(おびな)」に隨身(ずいじん：左大臣・右大臣ともよばれる)や三人官女(さんにんかんじょ)、五人囃子(ごにんばやし)等が付属します。

福田家では4セットの内裏雛が保存されており、いずれも、絢爛豪華に作られています。人形に使われている染料等の特徴から、このうちの3セットが100年以上前の明治時代の半ばから後半頃に作られたものであることが判明しました。また、この時期は全国的に雛人形が流行した時期にあたります。そのため、町内にも流行の波が押し寄せていたことが分かりました。また、もう1セットは、昭和前半に作られたものと考えられます。これは「御殿飾り」と呼ばれる形態のもので福田家で昭和33年に撮影された写真にもこのひな人形が写っています(写真7)。



写真7：福田家のひな人形  
昭和33年3月撮影。後ろに見えるのが御殿飾りのひな人形です。この雛人形も今回発見されました(写真8)。



写真4：整理作業風景

ホコリや虫の死骸を落とし、その後、風に当て「虫干し」を行いました。虫干しをすることで、湿気を飛ばし、カビや虫等の発生を防ぐことができます。



写真5：女雛(上段)と男雛(下段)

福田家からは、4対の女雛と男雛が発見されており、写真はそのうちの1対です。女雛の冠にはガラスのビーズが使われています。とてもおしゃれ。



写真6：五人囃子

五人囃子とは、雅楽を演奏をする5人組の楽団のことです。こちらも明治時代に作られたものと考えられます。生き生きとした顔つきをしており、今にも楽器の音が聞こえてきそうです。

## ❁ 祇雛-かみしもびな-

祇雛は、「祇（かみしも）」という衣裳を着た座り姿の人形のことです。内裏雛と異なり、通常はかわいらしいおっぱ頭をした男の子の姿をしています（写真10）。武井武雄氏によれば、現在の埼玉県鴻巣市周辺で盛んに作られたもので、女の子の誕生祝いの贈答品として利用されたものといえます。福田家からは21体の祇雛が見つかり、このうちの5体から送り主の名前が書かれたものが見つかりました。

## ❁ 浮世人形-うきよにんぎょう-

浮世人形とは、江戸時代から流行する人形の一つです。浮世絵のように歌舞伎や能の演目、伝説等をモチーフにしたものが多く、初節句のお祝いの品として贈答用に用いられました。福田家からは34体の浮世人形が見つかり、います（写真11）。

## ❁ おわりに -雛人形に込められた願い-

今回、福田家から見つかった雛人形は、細かいものを合わせると130点以上になります。発見時、これらは綿や紙で丁寧に包装され、収められていた箱の蓋には、幾重にも紙で目張りが貼られていました。この目張りは、虫やネズミ、湿気等から雛人形を守るために貼られたもので、一番下の目張りには明治時代の古文書、一番上の目張りには昭和の新聞紙が使われていました。つまり、明治時代から毎年、雛人形をしまうたびに目張りを行っていたことが分かります。これら雛人形が子供達の成長を祈り、何代にもわたって大切にされていたことが分かります。

【参考文献】（郷土資料館 文化財係 林 作成）  
上里町史編集専門委員会編『上里町史』別巻 上里町 1998年  
畑野栄三『全国郷土玩具ガイド 2』 婦女界出版社 1992年  
武井武雄『日本郷土玩具-東の部西の部-』 金港堂 1934年

### 【謝 辞】

雛人形の年代や特徴について、関口慎吾 様（鴻巣市産業観光会館 ひなの里）、菅原千華 様、蟹沢真弓 様（以上、岩槻人形博物館）、横内美穂 様（宮代町郷土資料館）よりご教示を賜りました。また、福田家当主の福田 功 様及びご家族の皆様には、ご多用にも関わらず調査にご協力を頂きました。この場をお借りして謝意を表します。



写真8：御殿飾り

見つかった御殿飾りは、幅と高さが90cmを越える大型のものです。組み立て式になっており、御殿の中央には女雛と男雛が飾られました。



写真9：整理中の御殿飾りの雛人形

御殿飾りに飾られた雛人形です。衣装には金色の糸等が使われており、明治時代に作られたものと比べると、洗練されているようにも思えます。



写真10：祇雛

祇雛は、全部で21体見つかりました。それぞれ様々な顔つきをしています。写真の祇雛は、特に頬の紅が美しい一体です。



写真11：浮世人形

見つかった34体のうちの一つです。牛に乗った公家風の男性の人形で、背景に梅が植えられていることから、男性が学問の神様である菅原道真公だと分かります。子どもの健やかな成長を祈って贈答されたものと考えられます。

# 大字忍保のひな祭り

上里町立図書館・郷土資料館 合同ミニ展示



令和4年2月26日～3月29日

会場 上里町立図書館・郷土資料館 1階

時間 午前9時～午後7時(休館日:3月14日)

お問い合わせ 上里町立郷土資料館 文化財係 0495-33-2682

